

地域連携シンポジウムⅡ ワークショップ記録

1 ワークショップ「市町村と大学の連携から何をめざすべきか」について

＜全体コーディネーター：岐阜経済大学 鈴木 誠先生＞

- ・ 市町村と大学の綿密な関係構築と強化のために、お互いの連携の可能性、分野、方法、当面の課題、連携の経験に基づく教訓等を率直に出し合い、ネットワーク大学コンソーシアム岐阜として「市町村と大学の連携から何をめざすべきか」を追求する事を目的とする。
- ・ ワークショップは4つのグループに分かれ、サブテーマをもとに、意見交換をする。
- ・ 今回のワークショップは論点の整理、課題の抽出を主目的とし、それらを、以後のネットワーク大学コンソーシアム岐阜としての具体的な取組（アクションプラン）に結びつけていくことを目指す。

2 グループワークショップで話し合われた内容

◆第1グループ「市町村計画策定への大学の参画について」

＜グループコーディネーター：岐阜経済大学 鈴木 誠先生＞

- ・ 市町村や大学のニーズ、シーズが分かりにくく、ミスマッチを起こしている。
- ・ コンソーシアムが地域と大学の情報交換の場となることができれば良い。
- ・ 市町村の窓口、大学の地域連携や産官学連携窓口の整備と人材育成が必要である。
- ・ 学生が地域連携に参加することの意義は大きい。専攻分野の習得のみならず、就業力の育成にもなる。
- ・ 市町村と大学をつなぐ役割をネットワーク大学コンソーシアム岐阜が求められている。そうした前提に立って、市町村もコンソーシアムの一員となり、コンソーシアム事業を大学と共に作っていくための協議を急ぐ必要がある。

◆第2グループ「地域連携事例での学生参加について」

＜グループコーディネーター：朝日大学 大野 正博先生＞

- ・ 市町村の様々な活動に対し、大学生に積極的に参加してもらいたいが、どこにアプローチすればよいのか、よくわからない。
- ・ 地元で育った子どもたちが、地元を離れない(または、Uターンしてくる)ような魅力ある地域独自の企画・事業が必要である。地域に魅力があれば、自然に若者も戻ってくるようになり、若者が参加すれば、地域もさらに活性化される。
- ・ 実際に、地域で活動している住民グループに大学生が参加してくれれば、活動の内容もよくわかり、結果的には継続的な活動になるのではないか。
- ・ 大学生の参加には、費用も含めた負担が生じることになるが、大学生からは、それを上回る『魅力』があれば参加できるという意見が出された。大学生が活動に参加する際に、負担に勝る『魅力』を如何に与えるかが重要である。
- ・ これまでのように受身の姿勢ではなく、大学と市町村とが相互に必要な情報を発信しあうことが大切である。但し、情報交換の場を誰が、どのようにコーディネートするかが、今後の課題となろう。

◆第3グループ「文系大学との産官学連携」

＜グループコーディネーター：岐阜聖徳学園大学 河野 公洋先生＞

- ・ 文系大学は、理工系大学に比べて、産学の連携は難しい。地域との連携は大切であると認識しているが、学生の時間確保が難しくなっている。
- ・ 地域に大学の取組が認知されていない。
- ・ 大学と連携し、授業の一環として、大学生からいろいろな提案を受けているが、授業期間を終えてしまうと、学生とのつながりが終わってしまう現状である。
- ・ 学生を参加させる場合に、ボランティアでの参加なのか、授業の一環としての参加なのか、問題となる。
- ・ 市町村のニーズと大学のシーズをマッチングさせる場として、ネットワーク大学コンソーシアム岐阜の活用が求められている。

◆第4グループ「高等教育機関の地域連携について」

＜グループコーディネーター：放送大学岐阜学習センター 古田 善伯所長＞

- ・ 大学側の窓口を、学部ごとではなく一本化し、コーディネート役が必要である。
- ・ いろいろな大学の特徴をうまく生かすために、コーディネーター間の連携を密にしていく必要がある。
- ・ 学生参加はボランティアと誤解されないように、サービ斯拉ーニング(※)の考え方で進めることが大切である。互いにwin-winの関係でないといけない。
- ・ コンソーシアムで、どの大学にどんな学生がいるかの情報提供ができるとうよい。

※ サービスラーニングとは：地域における大切な奉仕活動という実践を、それだけに留まらず座学や省察と結びつけることによって、学習経験を豊かにすると同時に、市民としての責任を教え、生涯にわたる地域への貢献を育み、地域の結びつきを強化するもの

3 ワークショップのまとめ

＜全体コーディネーター：岐阜経済大学 鈴木 誠先生＞

- ・ 大学は岐阜全域に均等にあるわけではない。大学がなくても大学と連携し生涯学習や市町村行政の相談対応などをしていくには、ネットワーク大学コンソーシアムが自治体と大学を仲介する中間支援機能を充実させることが必要である。情報の開示のみでなく、相談対応などきめ細かな連携支援事業を企画・実施する役割が期待されている。